



草津温泉



福祉と観光が両立するまちづくり

観光政策の充実により
インフラ・福祉・保健・教育への
循環が確立



Project KUSATSU

草津町だからこそできる 循環型福祉支援策

観光施策の充実によって
草津町だからこそできる
循環型福祉支援！

カテゴリA
インフラ

草津町のインフラ整備

カテゴリB
高齢者支援

草津町の高齢者支援

カテゴリC
生活支援

草津町の生活・くらし支援

カテゴリD
子育て支援

草津町の子育て支援

カテゴリE
危機管理

草津町の危機管理

観光と福祉が両立するまちづくり

草津町の危機管理

科学に基づき災害から住民を守る

- ・噴火対応と直後の判断
- ・火山と温泉街の位置
- ・火山情報の提供に関する検討会への参画
- ・草津白根山防災協議会
- ・砂防堰堤（国土交通省）、治山事業（林野庁）
- ・草津白根山 中央登山道 開通に向けた取り組み
- ・草津白根山における大量の熱供給について

噴火対応と直後の判断

～本白根山、突如の噴火～

2018年1月23日10時2分頃、本白根山が突如噴火。

噴火位置は鏡池北火口北側火口列と西側の火口及び鏡池火口底の火口列で、大きな噴石が多数飛散した。本白根山からの噴火は、実に1000年以上ぶりだったと考えられている。

草津町長は、この噴火を機に、**本白根エリアの領域閉鎖を即座に判断**し、白根山一帯のすべての施設を休止とさせた。

その上で、風評被害を抑止するため、噴火箇所から6 km離れている天狗山エリアのスキー場は**科学的根拠（サイエンス）をもって安全と判断**し、休業することなく営業をすぐに再開させた。

草津本白根山の噴火について

草津本白根山噴火に関し、不安とご心配をお掛け致しております。

報道にある通り3000年以上の噴火と言われております。噴火により噴火警戒レベルが3になりましたが、本白根山と草津温泉街は5キロメートル以上離れており、全く温泉街は危険が及ぶ位置にありません。当然のことですが、草津町長として噴火口周辺を暫定的に2キロメートルの立ち入りを禁じていますが、その範囲以外は危険はありません。この度の噴火の被弾距離約1キロメートルと推定しております。

火山噴火はマグマ噴火、マグマ水蒸気噴火、水蒸気噴火と分類されますが、今回の草津本白根山で発生しているのは水蒸気噴火とされ、マグマが噴出し温泉街に到達するような事はありません。また、一部報道で言われている融雪泥流の問題は火山の種類から考えられません。

すでに本日1月24日より天狗山スキー場、御成山スキー場は営業を再開します。また、殺生クワッドリフト、青葉山ゲレンデの営業も近日中に行う予定です。

なお、草津白根山の噴火レベル1の変化はありませんので、志賀草津高原ルート（国道292号）は関係者との協議を行いますが4月に開通を予定しております。

草津町は情報収集を行いサイエンスの観点から対応しておりますので、安心して草津温泉にお越し下さい。

平成30年1月24日

草津町長

黒岩信忠

志賀草津高原ルート of 四季

▲4月下旬頃（雪の回廊）



▲紅葉の高原ルート
(10月上旬頃)

火山情報の提供に関する検討会への参画

「火山情報の提供に関する検討会」の設置について

1. 目的及び検討事項

今般の御嶽山の噴火を踏まえ、居住者、登山者、旅行者等に対する火山活動に関する情報提供のあり方を検討するために、火山噴火予知連絡会に「火山情報の提供に関する検討会」を設置し、①わかりやすい火山情報の提供、②火山活動に変化があった場合の情報伝達の方法について検討を行う。

2. 検討会の構成メンバー

<学識者>

藤井敏嗣 東京大学名誉教授（座長）
石原和弘 京都大学名誉教授
田中 淳 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授
関谷直也 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター特任准教授

<自治体>

柳田剛彦 小諸市長
黒岩信忠 草津町長
青柳郁生 長野県危機管理監
河合孝憲 岐阜県危機管理部長

<利用者側の各分野>

塚田英雄 一般社団法人 信州・長野県観光協会専務理事
尾形好雄 公益社団法人 日本山岳協会専務理事

<報道>

辻村和人 日本放送協会 報道局 災害・気象センター長
谷原和憲 日本テレビ放送網 報道局ニュースセンター チーフプロデューサー

<国の機関>

名波義昭 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）
植松浩二 総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長
西山幸治 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課長
北川貞之 気象庁 地震火山部 火山課長

3. 検討スケジュール

10月27日（月） 第1回検討会（今回）
11月中 緊急提言を取りまとめ
年度末 最終報告を取りまとめ
～ 以後も必要に応じて、検討を継続



気象庁において2014年10月に発足され、全6回の検討会が開催された。日頃から**火山防災への意識が高く、科学的根拠（サイエンス）に基づく専門的見地の重要性を常に持っている人物**だと評価され、検討会構成メンバーへ就任依頼があった。

自治体首長への就任依頼は黒岩町長含め、全国で2名であった。会議は非公開であったが、報告書はすべて報道発表されている。

草津白根山避難訓練の実施

例年、志賀草津高原ルート(R292号)は噴火警戒レベル1の状態で開催されている。

2023年10月3日、草津白根山防災会議協議会として、例年と同様に小規模噴火等を想定した**避難訓練**を実施した。



令和4年5月28日(土)

毎日新聞



草津白根山の噴火想定
県などの防災会議協議会
避難訓練で手順確認
草津白根山の噴火を想定した訓練が、28日、同山頂付近で行われ、草津市や県、防災会議協議会(会長、黒岩信忠草津市長)の関係者が、火山活動に応じた車両や人の避難手順を確認した。小規模噴火を想定し、火山監視

令和4年4月20日(水)

読売新聞

草津白根山 噴火備え訓練

高原ルート再開前に

※緊急時はこちらへ



白根山の小規模噴火を想定した訓練で、シェルターに入る参加者ら(19日、草津市で)

国道292号「志賀草津高原ルート」の冬季閉鎖区間(17・9キロ)が22日に再開するのを前に、草津白根山・白根山(2160メートル)の小規模噴火を想定した避難訓練が19日に行われた。火口(湯釜)から半径1キロの立ち入り規制区域内に含まれる同ルートの本宮一万座三差路間(約2・5キロ)で実施され、「草津白根山防災会議協議会」を構成する県や町、気象庁、警察などの担当者約40人が参加。観光客やドライバーに誘導し、車を規制区外に動かす手順を確認した。白根山の噴火警戒レベルは昨年3月から「1(活火山でも警戒を要しない)」が続いており、同協議会は今季も昨季に続いて高原ルートの通行に支障はないと判断している。

県が噴火を知らせるサイレンのスイッチを入れ、無事で避難訓練。山頂駐車場付近にいた人を避難所に誘導した。その後、小規模噴火を想定し、避難場所の無料開放を計画している。関係者は「トイレ休みのため山頂駐車場を開放したい。もしもの事態に備え、万全を期していくので、安心して草津町を訪れてほしいと話している。」(庄司哲也)

草津白根山防災会議協議会の開催

草津白根山防災会議協議会 次第

日 時：令和 5 年 4 月 1 4 日
午後 1 時 3 0 分
場 所：草津町役場 大会議室

1. 開 会

2. 会 長 挨 拶 草津白根山防災会議協議会
会長（草津町長）黒 岩 信 忠

3. 議 題

- (1) 草津白根山防災会議協議会規約の一部改正について
- (2) 令和 4 年度経過報告及び現地監視体制・規制等の報告について
- (3) 草津白根山「湯釜付近」及び「本白根山」活動状況について
※気象庁 地震火山部監視課 火山監視・警報センター
東京工業大学
- (4) 令和 5 年度の対応について
- (5) その他

4. 閉 会

委員 号	所 属
1号	群馬県草津町長
	群馬県知事
	長野県知事
	群馬県嬬恋村長
	群馬県中之条町長
	群馬県長野原町長
2号	長野県高山村長
	気象庁地震火山部監視課 火山監視・警報センター所長
	前橋地方気象台長
	長野地方気象台長
3号	国土交通省関東地方整備局長
4号	陸上自衛隊第12旅団長 陸上自衛隊第12旅団第13普通科連隊長
5号	群馬県警察本部長 長野県警察本部長
6号	群馬県吾妻広域町村圏振興整備組合 消防本部長
7号	長野県須坂市消防本部長
	草津白根山火山専門家・東京工業大学
	草津白根山火山専門家・東京工業大学
	草津白根山土砂災害専門家(東京農工大学)
8号	林野庁関東森林管理局吾妻森林管理署長
	環境省上信越高原国立公園管理事務所長
	国土交通省利根水系砂防事務所長
	国土地理院関東地方測量部長
	群馬県環境森林部自然環境課長
	群馬県県土整備部道路管理課長
	群馬県警察長野原警察署長
	群馬県警察吾妻警察署長
	群馬県吾妻振興局吾妻行政県税事務所長
	群馬県吾妻振興局中之条土木事務所長
	群馬県吾妻振興局吾妻保健福祉事務所長
	長野県危機管理部危機管理防災課長
	長野県山ノ内町長
	長野県長野地域振興局長
	長野県警察須坂警察署長
	長野県北信地域振興局長
	長野県警察中野警察署長
	長野県岳南広域消防本部消防長
	長野県須坂建設事務所長
	長野県北信建設事務所中野事務所長

《草津町火山防災アドバイザー》

東京工業大学 名誉教授



令和 5 年度草津白根山防災会議協議会
を 4 月 1 4 日に開催し、各所属機関から
多くの委員に参加をしていただく。

このことから、日頃から草津町の白
根山火山防災に対する意識の高さや、**強
固な連携体制が構築**されていることが読
み取れる。

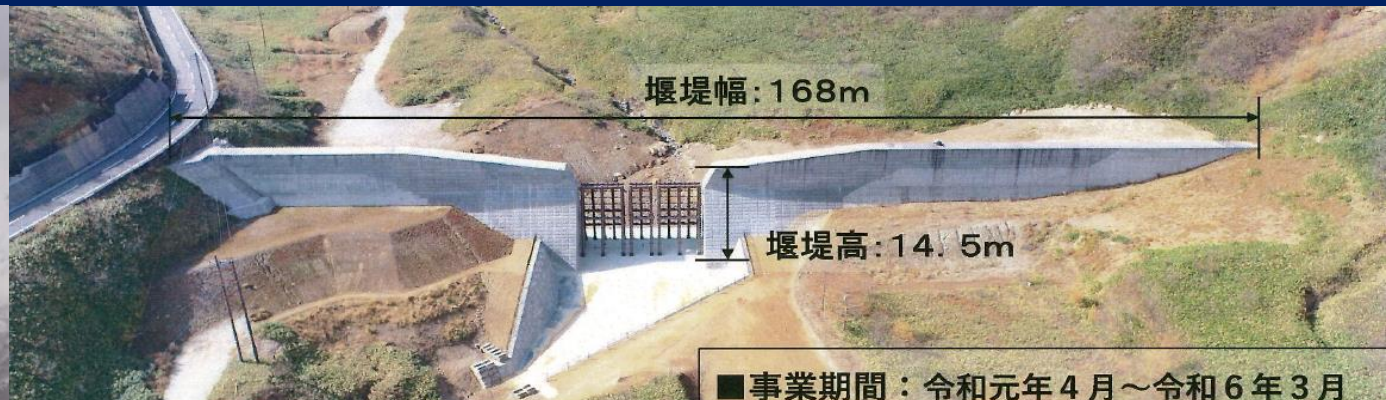


振子沢・清水沢 砂防堰堤及び治山事業について

毎日新聞



本白根山噴火により火山灰が降った



国土交通省 関東地方整備局 利根川水系砂防事務所 様
林野庁 関東森林管理局 吾妻森林管理署 様 のご活躍により
直轄火山砂防事業・白根地区防災対策総合治山事業に伴い、
振子沢砂防堰堤及び谷止工を設置されました。
心より御礼申し上げます。



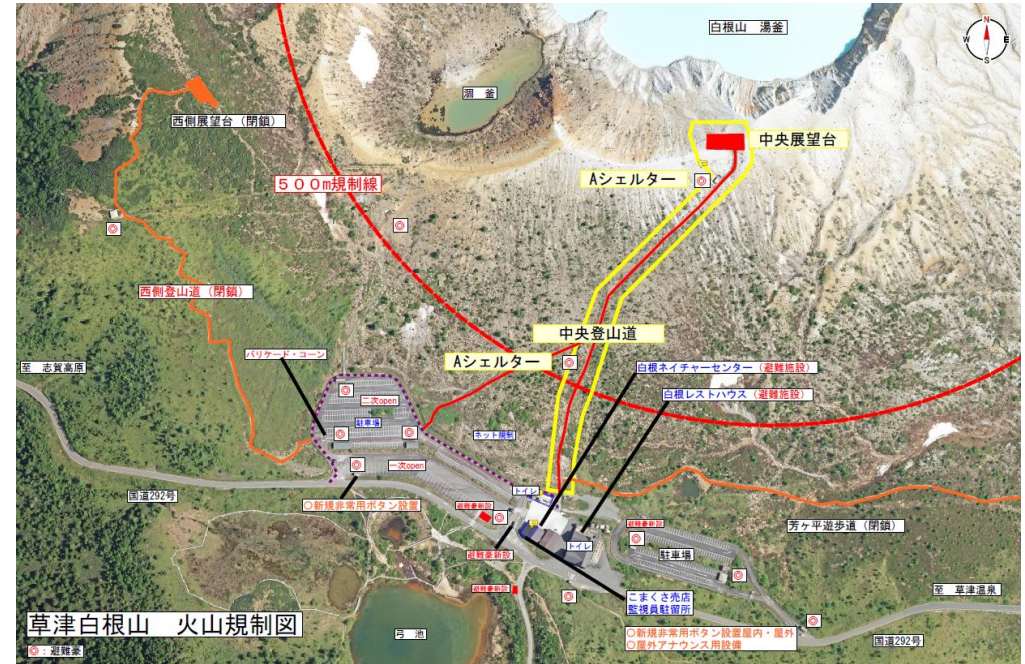
草津白根山 中央登山道 開通に向けた取り組み

草津白根山（湯釜付近周辺）は、
噴火警戒レベル1の状態ではありますが、
災害対策基本法63条の規定により、
草津町として立入規制区域に設定し、
加えて各遊歩道の入山規制を行っております。

関係機関と度重なる協議を行った結果、
一部この規制を緩和し、限定的に中央登山道を開
通させることといたしました。

インターネット上にて公募を行った結果、
大変多くの方にお申し込みをいただき、
関心の高さを再確認することとなりました。

しかし、気象庁の「草津白根山の火山活動
開設資料（R6.8）」により、火山活動が
やや増加傾向にあると発表されたことから、
苦渋の決断ではありますが、
中止の判断をする結果となりました。

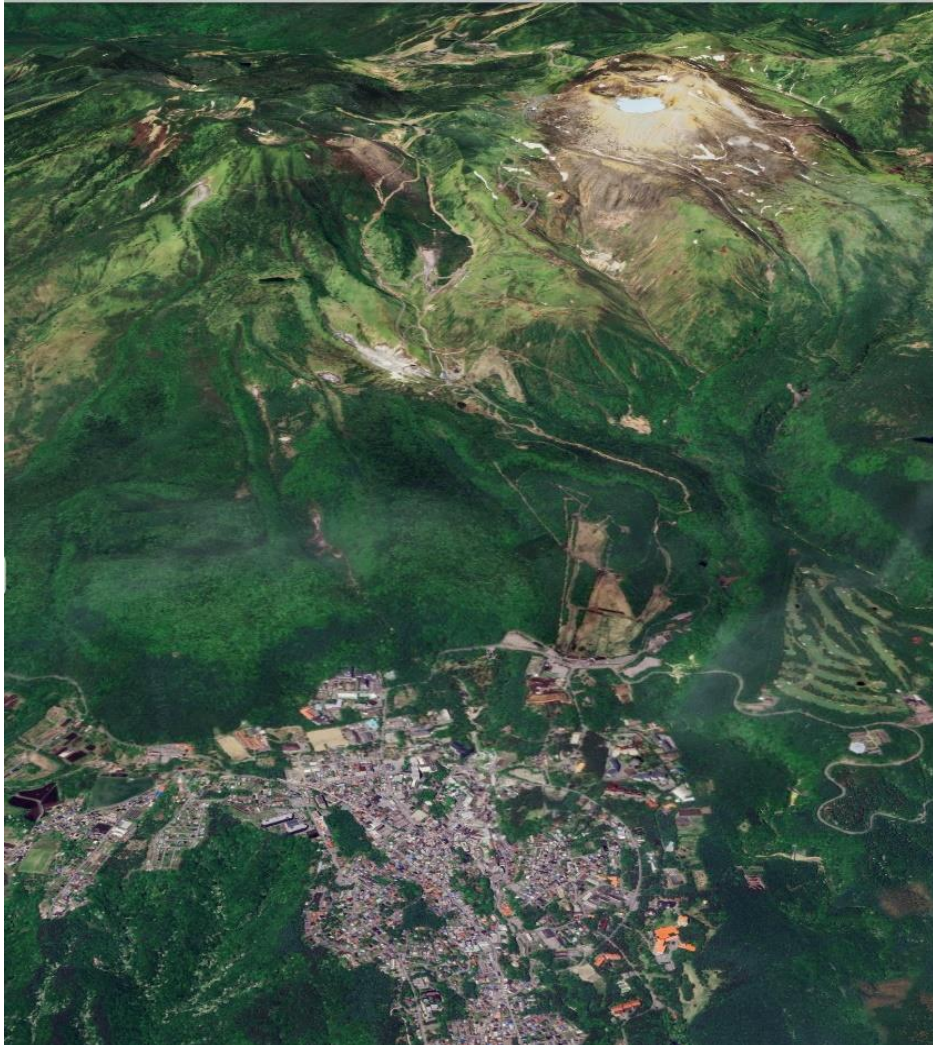


草津町の『サイエンスを最優先』とする基本的な考え方は、
これまでもこれからも変わることはありません。

草津白根山における大量の熱供給について

東京科学大学 寺田准教授調べ

国内の活動火山において、草津白根山は**全国第3位の熱エネルギー**を有している。
大量の熱エネルギーを、主に「温泉」としてのみ放出をしているのは草津白根山の**特徴**です。



第1位	別府山	4 0 0 MW
第2位	阿蘇山	3 0 0 MW
第3位	草津白根山	1 5 0 MW

※ MW（メガワット）は、1,000,000ワット

1. 電力に例えると、
1 5 0 MWは3 0 万世帯が1秒間に使うエネルギーに相当。
2. 第1位別府の4 0 0 MWの内、自然湧出は6 0 MW程度で、
温泉の大半は掘削井から動力による汲み上げ。
3. 第2位阿蘇の3 0 0 MWは、大半が火口湖の湯だまりで
放出され、温泉利用は不可能。

本来、活動火山は大規模噴火によって
大量の熱を発散するが、
草津白根山は、穏やかに
大量の温泉として熱を発散している。

温泉熱発電設備の導入計画

湧出後の万代鉱源泉における
温泉熱を利用した
バイナリー発電を県内初導入

約2,000～3,000L/minの万代鉱源泉を活用
超高温泉の熱交換技術を
温泉熱発電へ応用



電力利用先（例）

- ・ライトアップ
- ・街灯
- ・避難所非常用電源



再生可能エネルギー電気の供給により、
多様かつ柔軟でエコな温泉まちづくりに期待

活火山を持つ地域に住むということ

時に、活火山は甚大な被害と試練を与えると同時に、
かけがえのない恵みと素晴らしい景観を見せてくれます。

草津温泉は、全身の新陳代謝を促進し、経済を形成し、
コロナウイルスを不活化させ、
私達にたくさんの恵みを与えてくれる唯一無二の資源です。

「科学に基づき、上手に付き合うこと」

これこそがこの地域に住む私たちの使命だと確信しております。